

お札の移り変わりコーナー

1. 日本で最初のお札

日本に初めてお札が登場したのは、今から約400年前（江戸時代が始まるころ）です。世界で最初にお札が登場したのは中国ですが、日本は西洋よりも少し早く、世界で2番目に古くお札が登場した国なのです。

日本で最初のお札は、山田羽書といいます。「山田」とは、現在の三重県にある伊勢神宮の門前町の名前でした。「羽書」とは、お札のことです。山田羽書は、山田の大商人が発行し、大商人の信用によって山田で使われたお札でした。

山田羽書のデザインは、おふだのように縦長で、現在のお札とはだいぶ違います。図柄には、額面金額、発行者の名前、大黒様の絵などが描かれています。この日本独自のお札は、江戸時代の「藩」で使われた藩札に受け継がれました。



やまだ はがき
山田羽書
ちようぎん ぶん
丁銀5分

1600年ごろ
日本銀行貨幣博物館所蔵



さいしよき
最初期の藩札

えちぜんふくい ざん もんめ
越前福井藩札 銀5匁
かんぶん
寛文5 (1665) 年

2. 国産第一号の近代的なお札

国産第一号の近代的なお札が発行されたのは、明治10年のことです。その前年に現在の国立印刷局が近代的な工場を建て、外国人の技術者に印刷技術を教わり、外国製の印刷機を使って精巧なお札をつくり上げたのです。これ以来、約130年間、日本のお札は国立印刷局が製造し続けています。



国立銀行紙幣 新券1円 明治10(1877)年

3. 現在のお札

130年前のお札と現在のお札を比べてみると、変化している部分と変化していない部分があるのがわかります。横長の用紙に、主な絵柄が凹版印刷という特殊な方法で印刷されている点は、130年前と変わっていません。日本のお札に肖像(人の顔の大きな絵)が登場したのは明治14年、すかしが登場したのは明治15年です。ホログラムなどの新型の偽造防止技術が取り入れられたのは、平成時代になってからのことです。



日本銀行券 E1万円 平成16(2004)年

やってみよう!

TRY

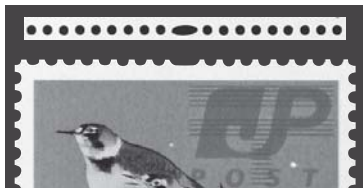
歴代のお札の展示を見て、デザインの変化を確認してみよう!

切手の移り変わりコーナー

1. 切手とは？

手紙を出すときには、切手が必要です。「切手を買う」ということは、「郵便料金を払う」と同じで、切手は、料金を前払いした証明なのです。切手を使った郵便制度は、手紙をより速く、より安く届けるために、イギリスのローランド・ヒルという人が考えたものです。1840年、世界最初の切手「ペニー・ブラック」が発行されてから、この制度は世界中に広がり、日本では明治4(1871)年、最初の切手「竜文切手」が発行されました。ちなみに、英語のstamp(スタンプ)を「切手」と名付けたのは、「日本郵便の父」と呼ばれる前島密。「切手」という言葉は、お金の受け取り証・預かり証という意味で、古くから使われていました。

2. 切手の特徴



目打ち

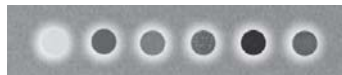
切手を切り取るための穴。切り取ると、ギザギザの形になる。枠として、切手のデザインを美しく見せる効果もある。



裏のり

切手を貼るため裏側につけられたのり。なめても大丈夫なポリビニールアルコールという成分でできていて、水にぬらすとくっつく。シール式の切手もある。

色



カラフルで写真のように美しく見える切手は、オフセットやグラビアという方法で印刷される。このマークを見ると、どの順番(左から右)で何色を使ったかがわかる。



「NIPPON」の文字

万国郵便連合の規則で、切手には必ずローマ字の国名が入っている。

3. 切手の移り変わり

明治時代

切手シートには、同じデザインの切手がつながっています。40枚ならその分、印刷用の版面が必要ですが、当初は40個ひとつひとつを手作業で彫っていました。そのため、すべての切手に微妙な違いがありましたが、後に技術が進んで、同じデザインの切手を簡単に印刷できるようになったのです。切手の特徴である目打ちや裏のりは、初期の切手からすでに使われていました。このころは、主に凹版や凸版という印刷方法で、1～2色で印刷されていました。明治10年には万国郵便連合に加盟し、日本の切手で世界中に手紙が届くようになりました。



目打ちがない最初の切手

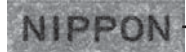


初めての目打ち

大正～昭和時代



初めて「NIPPON」の文字が入った切手



本物そっくりのニセ切手事件が起こったのをきっかけに、切手に使われる紙に「すかし」や「繊維くず」を入れて、簡単にはまねできないように工夫しました。昭和になると、切手のデザインに風景写真を使うようになり、写真をきれいに表現できるグラビアという印刷方法が使われるようになりまし。昭和30年代には切手ブームが起こり、グラビア印刷や凹版印刷によって、美しくカラフルに印刷された切手は、「小さな芸術品」と呼ばれるようになりました。昭和41(1966)年から、万国郵便連合の規則で、切手には必ずローマ字の国名「NIPPON」が入っています。

大地震や戦争のとき

大正から昭和にかけては、関東大震災や戦争など緊急事態が何度も起こりました。切手はいつでも必要なものなので、機械が壊れたり、材料が足りなくなっても、何とか間に合わせてつくらなければなりません。そこで、こうした緊急時には、短い時間で簡単に印刷できるオフセットという印刷方法(1色)が使われました。また、目打ちや裏のりを省略してその場をしのぎました。



緊急時、目打ち穴の代わりに切り目を付けた切手

現代



目打ちも裏のりもないシール式の変形切手

郵便物の量が増えて、手作業では追いつかなくなったため、切手を機械で読み取れるように、目には見えない透明の発光剤を切手の紙やインキに使うようになりました。また、シール式の切手や、変わった形の切手、好きな写真を印刷できる切手など、これまでにないタイプの切手が登場しています。より進化したオフセット印刷やグラビア印刷で、5～6色が使われています。

旅券・官報・諸証券コーナー

印刷局でつくっているその他の製品

1. パスポート(旅券)とは？

外国へ旅行する人の身分を証明し、外国政府に旅行中の安全をお願いするもの。日本で最初に使われたのは、江戸時代末期。写真はなく、1枚の紙に身長や顔立ちなどを書いたものでした。大正時代になってから、現在のような写真を貼った手帳型になりました。最近では、偽物をつくったり、他人になりすましたりする犯罪が増えているため、パスポートの中には顔写真や生年月日、名前などの情報を記録したICチップも組み込まれています。

2. パスポートの種類と表紙の色

●世界共通の項目



●紋章

●ICチップ入りを表すマーク

●国名とパスポートの種類

一般旅券

一般個人用

紺色：5年有効
赤色：10年有効



外交旅券

外交官やその家族用、茶色



公用旅券

国の用事で外国へ行く人やその家族用、緑色



3. 官報とは？

国会で成立した法律などは、国民に知らせる(公布する)必要があります。その役目を果たしているのが、土日祝日をのぞいて毎日発行される官報です。官報に掲載されると、その法律は有効になったとみなされるのです。

官報が初めて発行されたのは、明治16(1883)年7月2日。それ以前は木製の立札(高札)などを使っていました。



4. 国債とは？

国がお金を借りるために利子を付けて発行するもの。私たちが国債を買うことで、お金を国に貸したことになります。

国債は明治3(1870)年、横浜・新橋間の鉄道を建設する費用を借りるために初めて発行されました。



5. 収入印紙とは？

税金や手数料などを国に支払うためのもの。切手と同じく、前もって収入印紙を買うことで、払ったとみなされます。初めて発行されたのは、明治6(1873)年のことです。

収入印紙は国が発行するものですが、都道府県や市町村が発行するものは収入証紙といます。このほか、さまざまな種類の印紙が発行されています。



お札の芸術コーナー

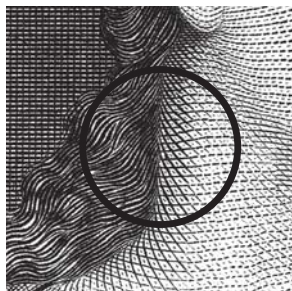
お札の製造に使われている特殊技術

凹版彫刻とは

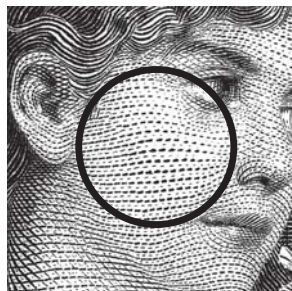
毎日の生活に欠かせないお札。お札を印刷するための版には、特殊な技術が用いられています。

凹版(直刻彫刻)は、金属板(主に銅板が使われる)に線や点を彫刻する技法で、彫刻した線の中にインキを詰め、強い圧力で紙に転写するため、線が盛り上がり紙に写ります。非常に細かい線や点の構成によって明るさや質感を表現することができるのが特徴です。

凹版は、もともと美術絵画の複製や肖像画として銅版画が制作されていましたが、それが偽造防止に効果があると考えられ、お札にも用いられることとなりました。



暗い部分(首の後ろ)



明るい部分(ほお)



大山助一彫刻

ENGRAVED BY SUKEICHI OYAMA

シンプリシティ
SIMPLICITY

やってみよう!

TRY

上の図を見て、暗い部分と明るい部分の線はどんな風に彫刻されているか観察して違いを考えよう。展示している銅版画やお札の肖像と比べてみよう。

凹版ならではの表現方法

凹版画の場合、彫刻する人によって線の構成が異なるため、同じ人物を彫刻してもまったく違ったイメージとなります。



B1000円(昭和25年)の聖徳太子



C5000円(昭和32年)の聖徳太子



C10000円(昭和33年)の聖徳太子